

- ④授業4：友達のことを知ろう。
 - ・感想を読み、良いと思ったことや共感できることについて話し合う。
- ⑤単元を通して
 - ・「いじめ」と「いじり」の違いについて話し合う。

5 成果と課題

(1) 成果

- ①絵本を使った授業のモデルを示すことができた。
- ②不当な扱いに堂々と対応しようとする児童が増え、人権に対しての意識の高まりが見られた。

(2) 課題

- ①平素からの学級経営や人間関係作りが不十分だと、教材が生きてこない。
- ②保護者も加わった学習活動の工夫。
- ③安全教育として「防災避難訓練」があるように、いじめなど人権侵害へ対処する訓練のような活動も考えられる。

単元「絵本『しらんぷり』を通して自分自身について考えよう」指導計画概要

時 領域	学習のめあて (◎人権教育の視点)	学習活動と内容
0	○いじめの場面を理解する。	○絵本「しらんぷり」の読み聞かせを聞く。長い物語なので3回に分けて2度実施。
1	◎生きるために必要なものを通して「権利」について知ることができる。(知識的側面) ◎いじめの構造を知り、いじめの例と関連付けることで、いじめを客観的にとらえ、いじめには様々な立場の人が関わり、いじめが人権を侵害する行為であることに気づく。(知識的側面)	『しらんぷり』から考えよう』 ○アイスブレイク「4つのコーナー」 ○「権利」について考え子どもに大切な三つの権利を知る。「安心」「自信」「自由」 ○どんな時に「安心」「自信」「自由」があるか考え、いじめられている時、そうではないことに気づく。 ○絵本「しらんぷり」に出てくる登場人物をいじめの構造図にあてはめ、その状態を確認する。 ○いじめの構造図で、いじめは「いじめている人」「いじめられている人」「いじめをひどくする人」「いじめを見ている人」に分けられることを知る。 ○いじめは様々な立場の人がいることで成り立つこと、どこの立場になってもおかしくないことを理解するとともに、自分はどこの立場が多いか考える。
2	◎いじめに関わるそれぞれの立場の気持ちを考えることで、他者の痛みや感情を共感的に受容できる。(技能的側面) ◎友達の考えと自分の考えを比較し、互いの相違を認め合うことができる。(技能的側面)	『いじめに関わるそれぞれの立場ではどんな気持ちがするだろう』 ○アイスブレイク「後出しじゃんけん」 ○ドンチャン、ヤラガセ、ヤラガセの友達、ぼく、の立場のいずれかについて全員が発表し、発表されたことをもとにそれぞれの気持ちについて検討する。 ○「仕返しややり返すこと」、「『やめて』と言うこと」、「『いじり』と『いじめ』の違い」、「いじめられてもニコニコしていること」等について話し合う。 ○誰もがいじめが続いてほしくないと思っていることを確認する。
3	◎いじめの種類について考えることで人権侵害の場面に気づくことができる。(知識的側面) ◎いじめの解決に向けそれぞれの立場で何ができるか考えることで、人権侵害を受けている人々を支援しようとすることができる。(態度的側面) ◎いじめている人の気持ちを考えることで、多様性に対する理解を深めることができる。(態度的側面)	『いじめについてそれぞれの立場で何ができるだろう』 ○アイスブレイク「仲間さがし」 ○いじめにはどんなものがあるか考える。＜暴力系＞＜コミュニケーション系＞ ○いじめられている人は「安心」「自信」「自由」があったか考える。 ○いじめられている人はどんなことができるのか考え、「安心」「自信」「自由」を回復させるには「NO(嫌という)」「GO(逃げる)」「TELL(話す)」の原則があることを知るとともに「告げ口」と「相談」の違いを確認する。 ○いじめを見ている人はどんなことができるのか考える。 ○いじめている人の気持ちを考えるとともに、いじめている人に、いじめる権利がないことを確認する。 ○「いじめについて」今、考えていることを自由に記述する。
4	◎いじめに対する友達の考えを知り、自分の考えと比較することで、多様性に対する開かれた心で肯定的評価をすることができる。(価値的・態度的側面) ◎対立的問題を非暴力的で、双方にプラスとなるように解決する技能の基礎を高めることができる。(技能的側面)	『いじめについて友達の考えを知ろう』 ○前時に書いたそれぞれの感想を読み、良いと思ったところや共感できるところに線を引く。 ○線を引いたところについて、どんなところを良いと思ったのか、あるいは共感できるところのかを発表し検討する。 ○4回の授業を通して自分の中で変わったことやわかったことについて自由に記述する。

資料1 『しらんぷり』 あらすじ

ささいなことからヤラガセたち4人組からいじめられることになったドンチャン。それを見ているだけのぼくとクラスメイト。いじめは巧妙で先生も気づかない。ドンチャンは暴力を受けたり、万引きを強要されたり、服を脱がされたりする。ドンチャンは、劇の発表会でヤラガセに仕返しをするが、その後、転校していく。ぼくはいじめを知りながら何もできなかったというもやもやした気持ちのまま卒業できないと、卒業式練習の最後で全校の前で話すという物語。

資料2 第6学年 学習指導案（略案）

(1) 授業1 『しらんぷり』から考えよう

ア 目標

- 生きるために必要なものを考えることを通して「権利」について知ることができる。(知識的側面)
- いじめの構造を知り、いじめの例と関連付けることで、いじめを客観的にとらえ、いじめには様々な立場の人が関わり、いじめが人権を侵害する行為であることに気づく。(知識的側面)

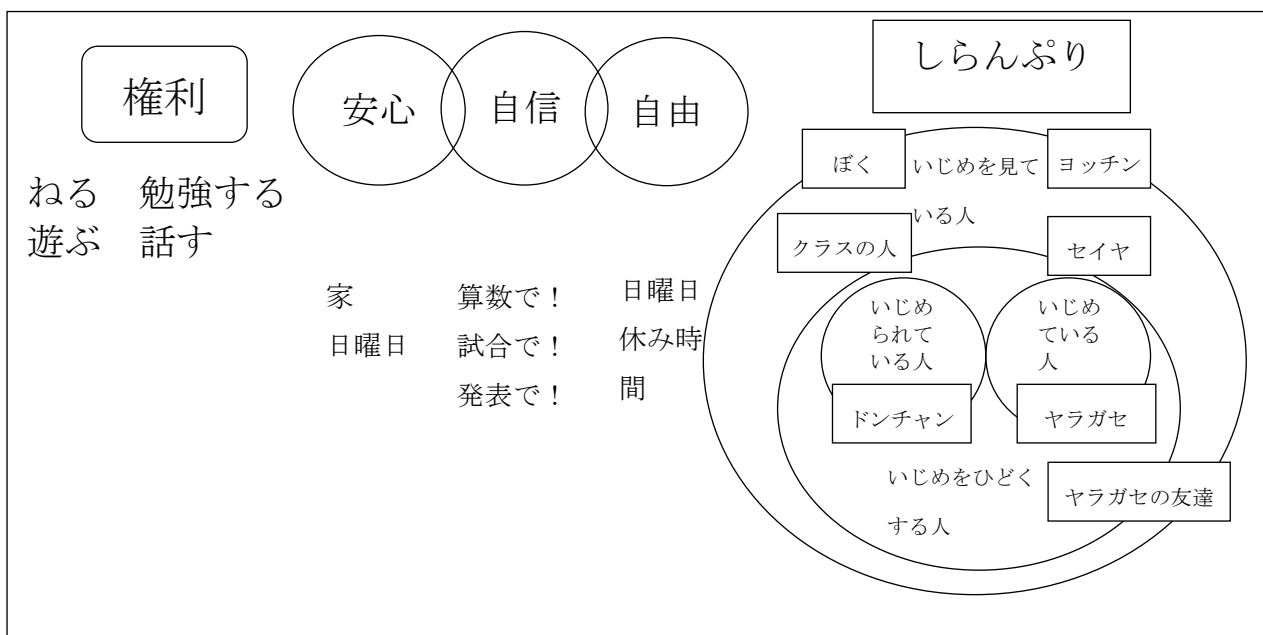
イ 展開

過程目標	学習活動	時配	指導上の留意点(○)・評価(◇)	教材・教具
話しやすい 雰囲気をつくる。	<p><アイスブレイク「4つのコーナー」></p> <p>○自分の意見に沿って教室の4隅の「はい」「いいえ」「どちらかと言えばはい」「どちらかと言えばいいえ」のコーナーに移動する。</p> <p>「犬が好き？猫が好き？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬, 猫, どちらも好き, どちらも嫌いに分かれる <p>「夏が好き？冬が好き？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏, 冬, どちらも好き, どちらも嫌い 	5	<p>○アイスブレイクをすることで、自分を振り返らせたり、緊張感をほぐしたり、同じ仲間を見つけることの楽しさを味わえるようにする。</p> <p>○自分自身の価値観を振りかえると共に、友だちの価値観の多様性を実感させ、答えは一つではなく、自分とは異なる意見も間違いではないことを理解させる。</p>	
権利について確認する。	<p>○「権利」について考える。</p> <p>「今日からご飯をあげない」「今日、トイレへ行ってはいけない」と言われたらどうなるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困る・餓死する・生きていけない ・そのまましちゃう・きたない ・生きていけない <p>○ないと困るもので、生きていくうえで</p>	25	<p>○それぞれのコーナーに並んだ児童に「なぜそう思うのか？」理由を聞く。</p> <p>○自由に連想させ、何人かに発表させる。</p> <p>○生きていくために必要な食と排泄にしぼる。</p> <p>○「どうする？」と行動を聞くのではなく「どうなる？」という状態を聞く。</p> <p>○「権利」は、ないと困る</p>	「権利」

<p>いじめの例といじめの構造をつなげる。</p>	<p>必要なものを「権利」ということ知る。 ○権利が取り上げられると悲しい気持ちやつらい気持ち、こわい気持ちになることを知る。 ○他にどんな「権利」があるか考える。 ・寝る権利 ・勉強する権利 ・遊ぶ権利 ・話す権利 ○子どもに大切な三つの権利を知る。 「安心して生きる権利」 「自信をもって生きる権利」 「自由に生きる権利」 ○「安心」「自信」「自由」をジェスチャーで覚える。 ○どんな時に「安心」か考える。 ・家にいる時 ・友達と遊んでいる時 ○どんな時に「自信」があるか考える。 ・算数の計算ができた時 ・試合に勝った時 ○どんな時に「自由」か考える。 ・家に帰った時 ・休み時間になった時 ○いじめを受けている時、「安心」「自信」「自由」か考える。 ・「安心」「自信」「自由」がない ○絵本『しらんぷり』に出てくる登場人物をいじめの構造図にあてはめ、その状態を確認する。 ○だれが困っていたか考える。 ・ドンチャン ○ドンチャンは何がつらいか考える。 ・助けてくれないこと ・ヤラガセに勝てないこと ○いじめの構造図で、いじめは「いじめている人」「いじめられている人」「いじめをひどくする人」「いじめを見ている人」に分けられることを知る。</p>	<p>15</p> <p>もので生きていくうえで必要なものであることをおさえる。 ○「権利」がイメージしづらいときは、学校生活を送るうえで必要なものを考えさせる。 ○「安心・自信・自由」を合わせて「心の力」であることを伝える。 ○「安心」は胸の前で腕をクロス、「自信」は両腕でガッツポーズ、自由は「万歳」。 ○安心してしている時を自由に連想させ、発表させる。 ○自信がある時はどんな時か、連想させ、発表させる。 ○どんな時に自由を感じているか連想させ、発表させる。 ○いじめられている時は権利が奪われていることをおさえるようにする。 ◇自分の生活と権利を結び付けられたか。(発表・観察) ○あらかじめ読み聞かせしておいた絵本『しらんぷり』で起きるいじめを題材に、いじめの構造について考えるようにする。 ○物語を想起しやすいように、登場人物のイラストと名前カードを使う。 ○いじめの構造図に「ドンチャン」「ヤラガセ」「ぼく」「他の友達など」登場人物をあてはめることで、いじ</p>	<p>の掲示物</p> <p>「安心」 「自信」 「自由」 のカード</p> <p>絵本『しらんぷり』 いじめの構造図 「ドンチャン」 「ヤラガセ」 「ぼく」 「ヤラガセの友達」 「セイヤ・ヨッチン」 「チカコ」</p>
---------------------------	--	--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめている人→ヤラガセ, ヤラガセの友達 ・いじめられている人→ドンチャン ・いじめをひどくする人→ヤラガセの友達 ・いじめを見ている人→その他 <p>○いじめは様々な立場の人がいることで成り立つこと, どこの立場になってもおかしくないことを理解する。</p> <p>○自分はどこの立場が多いか考える。</p>	<p>めの構造を明らかにする。</p> <p>○「いじめをひどくする人」については傍観者との境界があいまいであるが, 存在することを説明する。</p> <p>○いじめは特別な理由がなくはじまることをドンチャンを例に話す。</p> <p>○いじめに対するこれまでの自分の立ち位置を考えさせるが, 特に発表は求めない。</p> <p>◇いじめは様々な人が関わっていることに気づいたか。(発表・観察)</p>	<p>「クラスの人」の絵</p>
--	--	---	------------------

ウ 板書計画



(2) 授業2 いじめに関わるそれぞれの立場ではどんな気持ちができるだろう

ア 目標

○いじめに関わるそれぞれの立場の気持ちを考えることで, 他者の痛みや感情を共感的に受容できる。

(技能的側面)

○友達のと自分の考えを比較し, 互いの相違を認め合うことができる。

(技能的側面)

イ 展開

過程目標	学習活動	時配	指導上の留意点(○)・評価(◇)	教材・教具
話しやすい雰囲気を作る。	<アイスブレイク「後出しじゃんけん」> ○声をしっかり出しながら教師に勝てるように後出しでじゃんけん	3	○誰もが声に出して発言しやすいように, じゃんけんをして気持ちをほぐす。	

<p>前時のふりかえり</p>	<p>をして、授業のウォーミングアップをする。 ○前時をふりかえる。</p>	<p>3</p>	<p>○いじめの構造図を示しながら、前時を振り返られるようにする。</p>	<p>いじめの構造図</p>
<p>いじめに関わるそれぞれの立場について気持ちを考える。</p>	<p>○それぞれの立場でどんな気持ちとするのか考える。 ○ドンチャン、ヤラガセ、ヤラガセの友達、ぼく、の立場のいずれかについて全員が発表する。 『ドンチャン』はどんな気持ち？ ・怖い・悲しい・さみしい・くやしい・助けてほしい・逆らえない・やり返したい 『ヤラガセ』はどんな気持ち？ ・むかつく・面白い・ドンチャンが悪い・いじめだとわかっている・いじっているだけ・いじめられても仕方ない・友達を失いたくない 『ヤラガセの友達』はどんな気持ち？ ・やらないと今度は自分がやられる・孤立したくない・本当は嫌だ・面白い・自分は悪くない・ヤラガセに命令されている・ヤラガセが悪い・ノリでやっている 『ぼく』はどんな気持ち？ ・助けたい・怖い・今度は自分がやられる・心の中の声は言えない・チカコに言われてわかっているんだけど勇気がない</p>	<p>36</p>	<p>○どの立場で話しているのか明確にしやすくするために、ネームプレートを、選んだ立場に貼るようにする。 ○それぞれの立場の気持ちについての洞察を深めるため、一人一人に気持ちを話させ、じっくり話し合いを進める。 ○立場が集中した場合は、他の立場について話すようにする。 ○加害者や被害者、観衆、傍観者という言葉は使わず、いじめている人、いじめられている人、いじめをひどくする人、いじめを見ている人という言葉を使う。 ○それぞれの立場について発表されたことを板書にまとめる。 ○特に次のような言葉をキーワードとし、児童に深く考えさせるために問い直す。 <ドンチャン> (被害者) ・やりかえしたい、コンクチョウ、シャーペンを返す <ヤラガセ> (加害者) ・いじめていない、いじっているだけ <ヤラガセの友達> (観衆) ・「ノリ」でやっている、孤立したくない <ぼく> (傍観者) ・迷っている、ニコニコマークは不安を隠している ○ドンチャン、ヤラガセ、ヤラ</p>	<p>ネームプレート</p>

	<p>○誰もがいじめが続いてほしくないと思っていることを確認する。</p>	<p>ガセの友達, ぼく以外の人物の気持ちについて話そうとするときは, それも認める。</p> <p>○「しらんぷり」に出てくる暴力系のいじめだけでなく, コミュニケーション系のいじめについても触れるようにする。</p> <p>◇いじめの当事者の気持ちを考えて発表したり, 意見を言ったりすることができたか。</p> <p>(発表・観察)</p> <p>3 ○話されたことをまとめて, いじめはお互いに嫌な気持ちになっていることを確認する。</p>	
--	---------------------------------------	--	--

ウ 板書計画

いじめにかかわるそれぞれの気持ちを考えよう

立場	気持ち
ドンチャン (いじめられている)	
ヤラガセ (いじめている)	
ぼく (いじめを見ている)	

(3) 授業3 いじめについてそれぞれの立場で何ができるだろう

ア 目標

- いじめの種類について考えることで人権侵害の場面に気づくことができる。 (知識的側面)
- いじめの解決に向けそれぞれの立場で何ができるか考えることで, 人権侵害を受けている人々を支援しようとするすることができる。 (態度的側面)
- いじめている人の気持ちを考えることで, 多様性に対する理解を深めることができる。 (態度的側面)

イ 展開

過程目標	学習活動	時配	指導上の留意点(○)・評価(◇)	教材・教具
話しやすい	<アイスブレイク「仲間さがし」>	3	○気持ちがほぐれるように	

<p>雰囲気をつくる。</p>	<p>○教師によるお題に対する自分の答えを一つ用意し、その答えを声に出しながら教室を歩き回り、同じ答えの仲間を見つけグループをつくる。</p>		<p>声に出して動くようにさせる。</p>	
<p>いじめの構造をふりかえる。</p>	<p>○何個かのグループに分かれたら、どんなグループなのか発表する。 ・好きな教科・好きな色。</p> <p>○いじめにはどんな人たちが関わるか。 ・いじめている人 ヤラガセ ・いじめられている人 ドンチャン ・いじめを見ている人 ぼく 他 ・いじめをひどくする人 ヤラガセの友だち</p> <p>○前時に話し合ったことを確認する。</p>	<p>2</p>	<p>○一人も仲間が見つからない場合も、それはそれで個人的で貴重な意見であると尊重する。</p> <p>○題を変えて実施する。</p> <p>○いじめの構造図を示しながら、これまでの学習を振り返られるようにする。</p>	<p>いじめの構造図</p>
<p>いじめの種類を確認する。</p>	<p>○いじめにはどんなものがあるか考える。 ＜暴力系＞ なぐる・ける・脱がす・物をもたせる。 ＜コミュニケーション系＞ 無視・悪口・陰口・物かくし・ひやかし・からかい・悪い噂</p>	<p>7</p>	<p>○前時の話し合いをまとめたプリントを配付し、これまでの学習を振り返る。</p> <p>○これまで、見たり聞いたりしたものや報道などで知ったいじめを発表させる。</p> <p>○暴力系とコミュニケーション系のいじめにカテゴリー分けをする。</p> <p>◇様々ないじめの型に気づくことができたか。(発表・観察)</p>	<p>前時の話し合いをまとめたプリント</p>
<p>いじめられている人はどんなことができるか考える。</p>	<p>○いじめられている人は「安心」「自信」「自由」があったか考える。</p> <p>○いじめられている人はどんなことができるのか考える。 ・嫌だという・逃げる・友だちに相談する・先生に相談する・親に相談する</p> <p>○「安心」「自信」「自由」を回復させるには「NO(嫌という)」「GO(逃げる)」「TELL(話す)」の原則があることを知る。</p>	<p>5</p>	<p>○「NO」「自信」「自由」を黒板で示しながら考えさせる。</p> <p>○「NO」「GO」「TELL」の手段を伝え、これをもとにいじめられている人ができることを考えるようにする。</p>	<p>「安心」「自信」「自由」のカード</p>
<p>「告げ口」と「相談」の違いを確認する。</p>	<p>○「告げ口」と「相談」の違いを確認する。</p>		<p>○「告げ口」と「相談」の違いについて、子どもたち</p>	<p>「告げ口」「相談」</p>